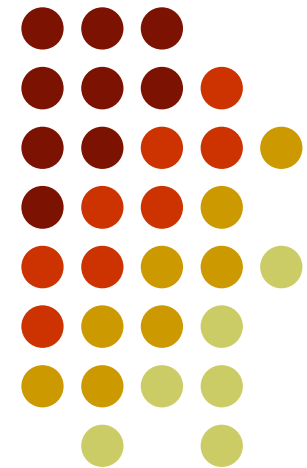


行田市都市計画マスタープラン策定

第1回市民まちづくり会議

平成23年11月27日(日)
10:00~12:00



1. 行田市都市計画マスタープラン 策定について



1) 都市計画マスタープランとは

- 都市計画法第18条の2に定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のこと。
- 市の長期的なまちづくり及び都市計画の総合的な指針を示すもの。

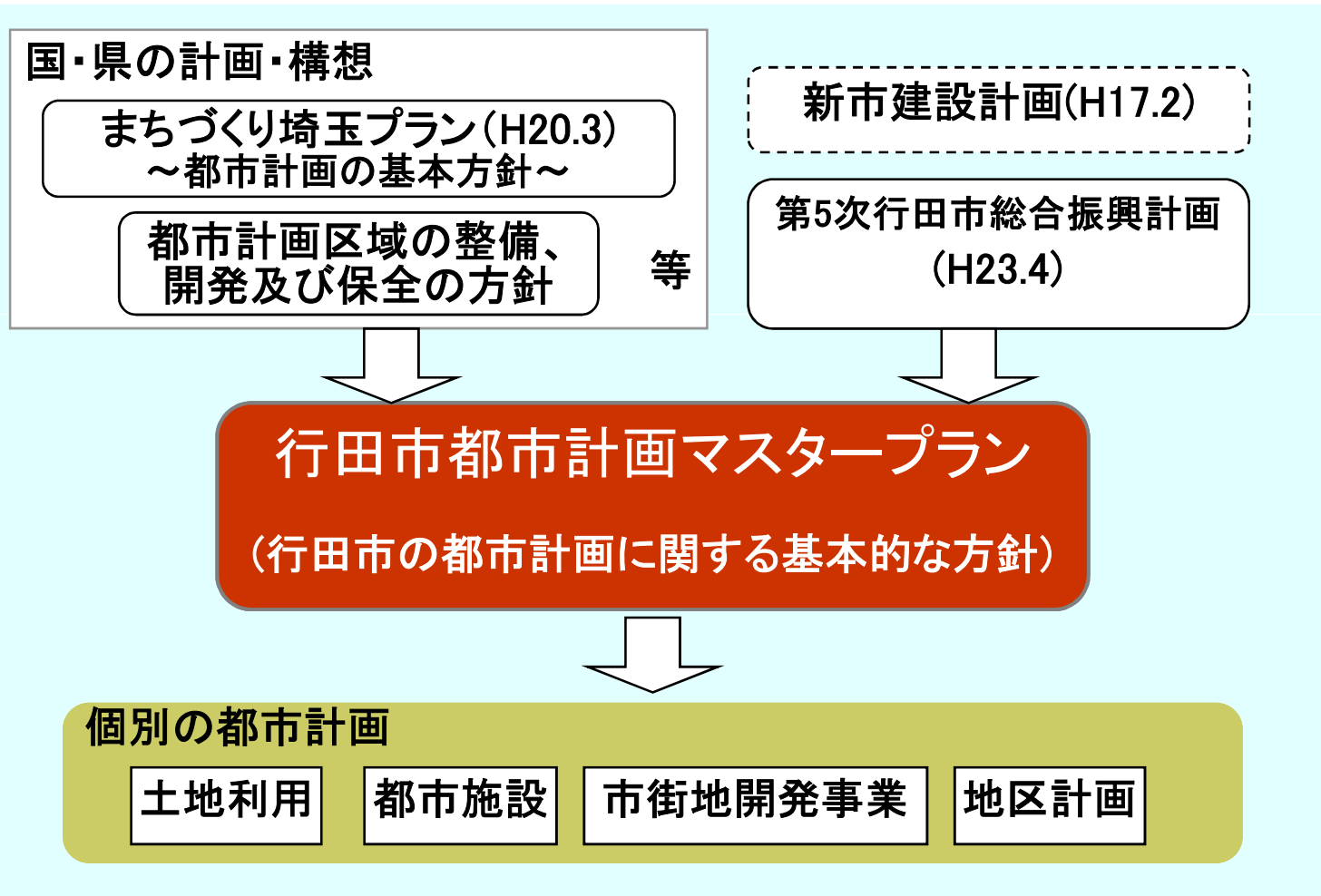


市が目指す、20年後の将来像を明確に示しながら、都市計画に係わる施策を総合的かつ体系的に展開するものであり、市の都市計画の「羅針盤」の役割を担うもの。





2) 都市計画マスタープランの位置づけ



3) 新たな都市計画マスタープラン 策定の視点



今後の都市構造の
あり方を見据えた
計画づくり

- ・ 人口減少・少子高齢化の進行
- ・ コンパクトシティの考え方への転換
- ・ 南大通線の市街化調整区域による分断
- ・ 中心市街地の空洞化や商業の衰退
- ・ 地域コミュニティの維持

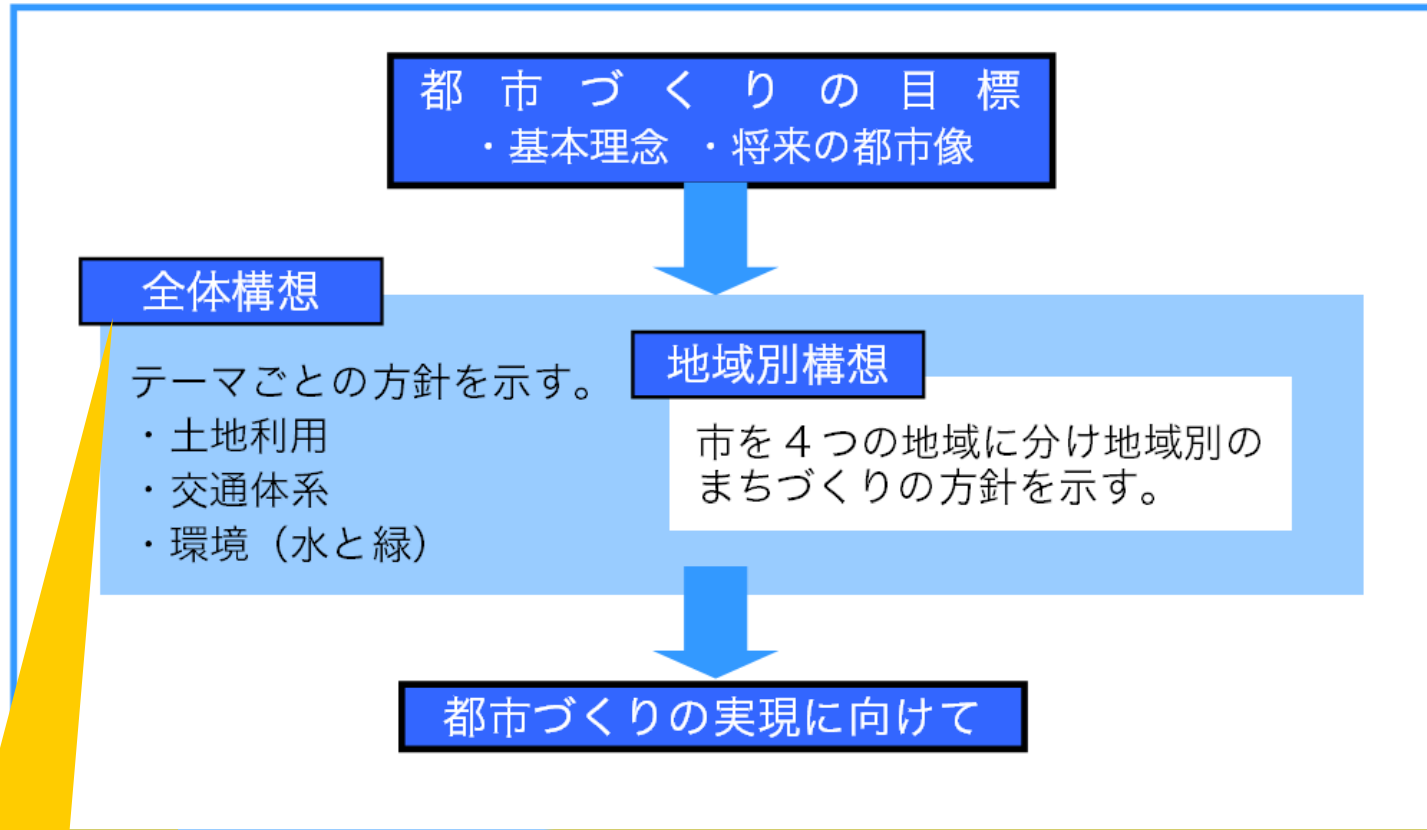
「絵に描いたもち」
では終わらせない
計画づくり

- ・ 共感できる将来のまちの姿を示す
- ・ 実現に向けたプログラムを示す
- ・ 市民と行政の協働により策定する

市民参画による
「暮らしの視点」を
生かした計画づくり

- ・ 主役である「市民」の感覚や思いを形にする
- ・ 身近な地域資源や地域特性をいかした計画をつくる
- ・ まちづくりの担い手を育てる

4) 都市計画マスタープランの構成

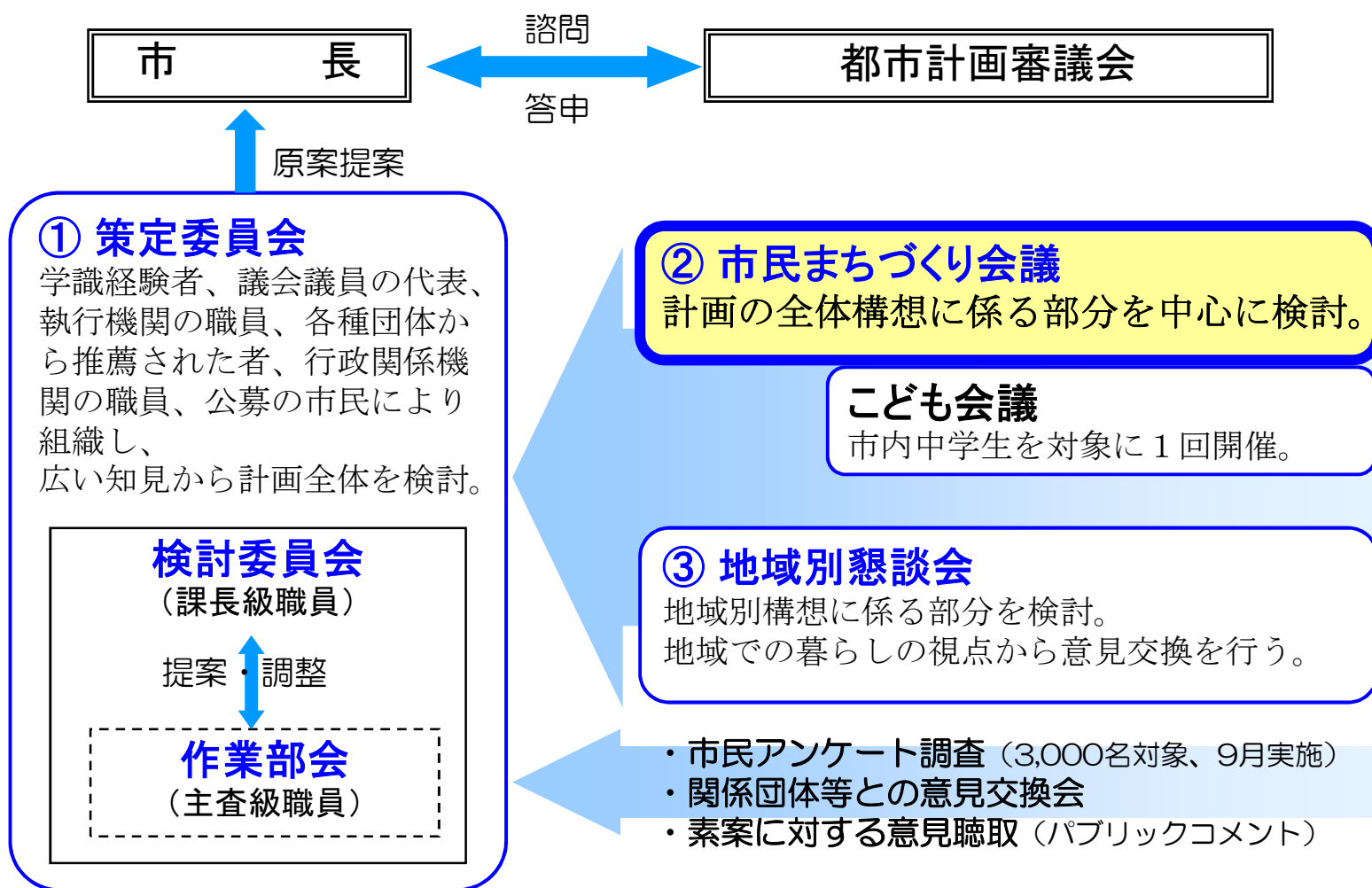


市民まちづくり会議では、「全体構想」に係る部分について検討します。

テーマ(分野)ごとの現況と課題や、まちづくりの方向性について検討を行い、市民提案としてまとめます。



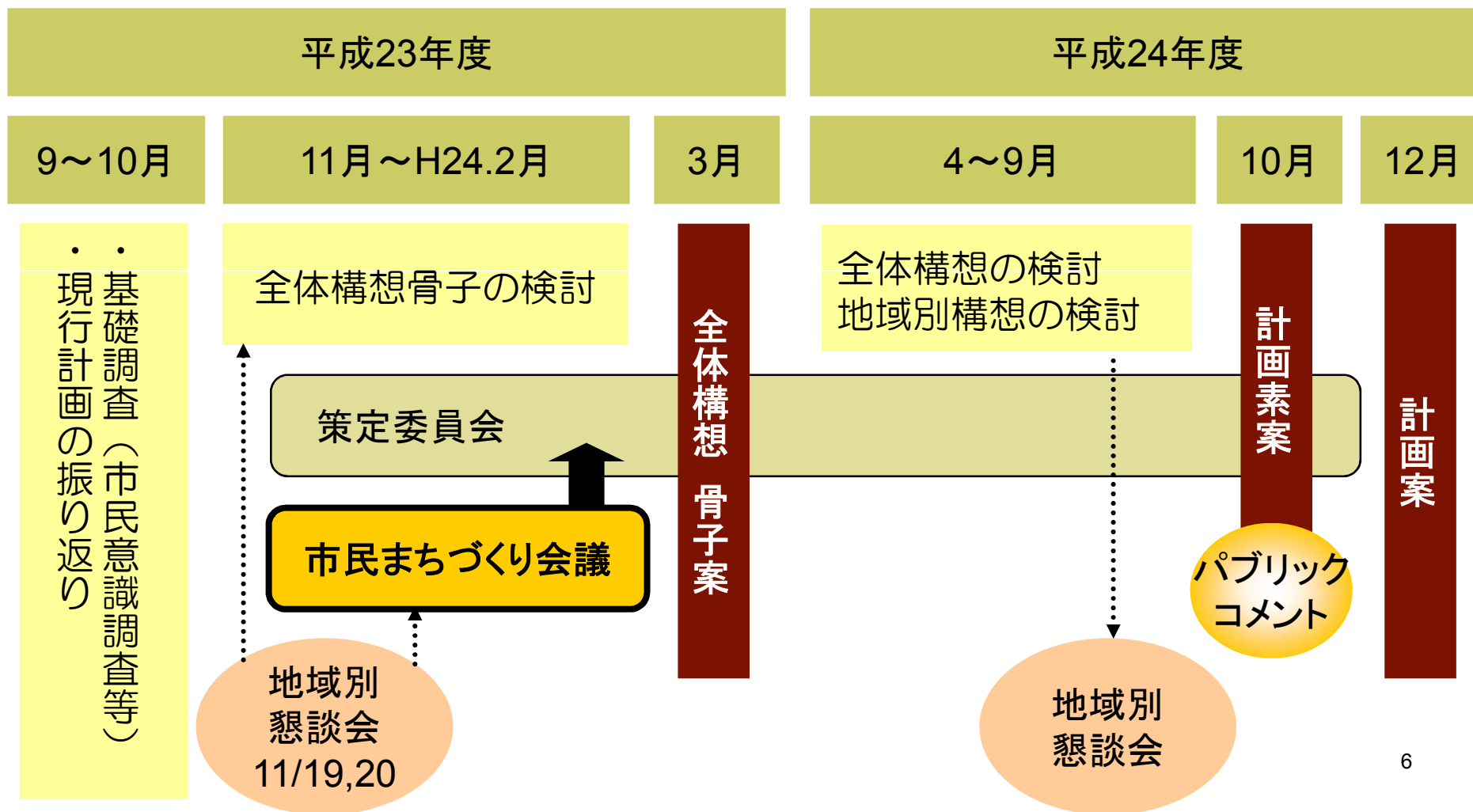
5) 都市計画マスタープラン策定の進め方



行田市民



6) 策定スケジュール



7) 市民まちづくり会議における検討フロー



第1回
11/27(日)

まちづくりの現状と
課題を整理しよう

- ・オリエンテーションとグループ分け
- ・市の現状についての報告
- ・まちづくりの現状と課題について意見交換

第2回
12/18(日)

まちづくりの方向性
を考えよう

- ・まちづくりの課題の確認
- ・課題解決に向けたまちづくりの方向性の検討

第3回
1/29(日)

まちづくり方策を
考えよう

- ・まちづくり方針の確認
- ・まちづくりを進めるための方策の検討

第4回
2/26(日)

テーマ別まちづくりの
市民案をまとめよう

- ・これまでの検討成果の振り返り
- ・市民ができる取組や重点的な取組の検討

テーマ別まちづくりの市民案として提出



8) グループ分けについて

- 関連のある分野について総合的・複合的なまちづくりを検討するために、市民まちづくり会議では、以下の4つのグループに分かれて検討を進めます。

グループ	分野
住まいと暮らし	住環境、防災・防犯、コミュニティ
暮らしを支える	道路、公共交通、下水道、情報インフラ
魅力を高める	自然環境(水と緑)、景観、歴史・文化、レクリエーション
賑わいをつくる	中心市街地と駅周辺のまちづくり、産業振興(農・工・商)、観光

2. 行田市の現況



1) 人口・世帯数（資料p4）

- 世帯数は増加しているが、人口は平成12年（86,308人）以降、減少している（平成22年：85,801人）。
- 減少幅は増加傾向にあり、平成17年以降、毎年500人以上の人口減が続いている。
- 人口増加数・社会増加数は、平成5年を境に減少傾向にあり、平成7年頃からはマイナスに転じている。また、自然増加数は平成15年頃からマイナスに転じている。

2) 流入・流出人口 (資料p4)



- 平成17年時点で、通勤通学による本市への流入人口は、約16,000人。一方、流出人口は、約25,000人。

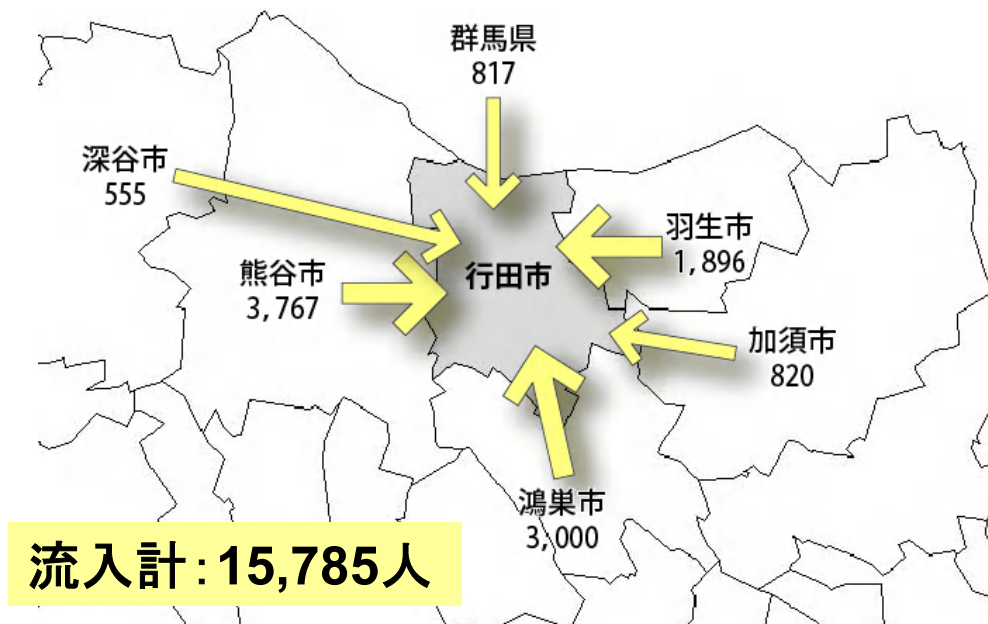


図 流入人口

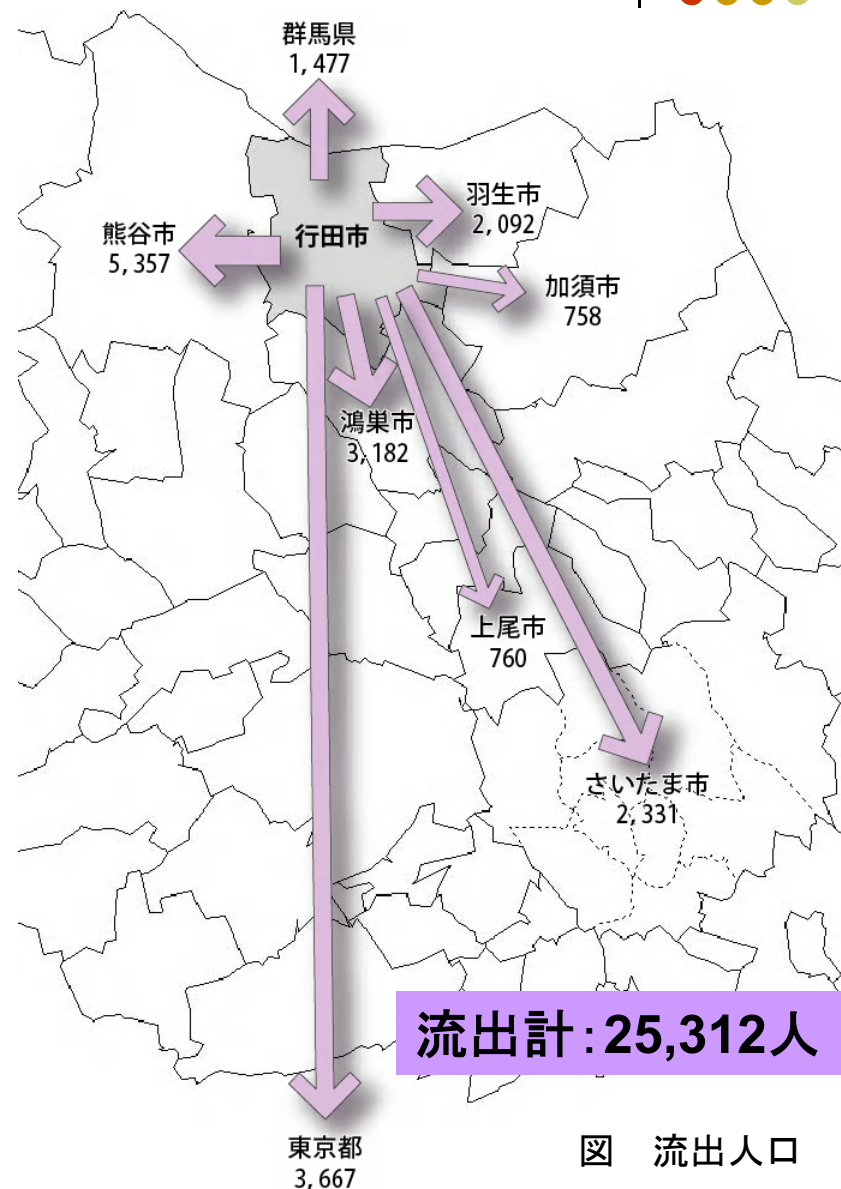
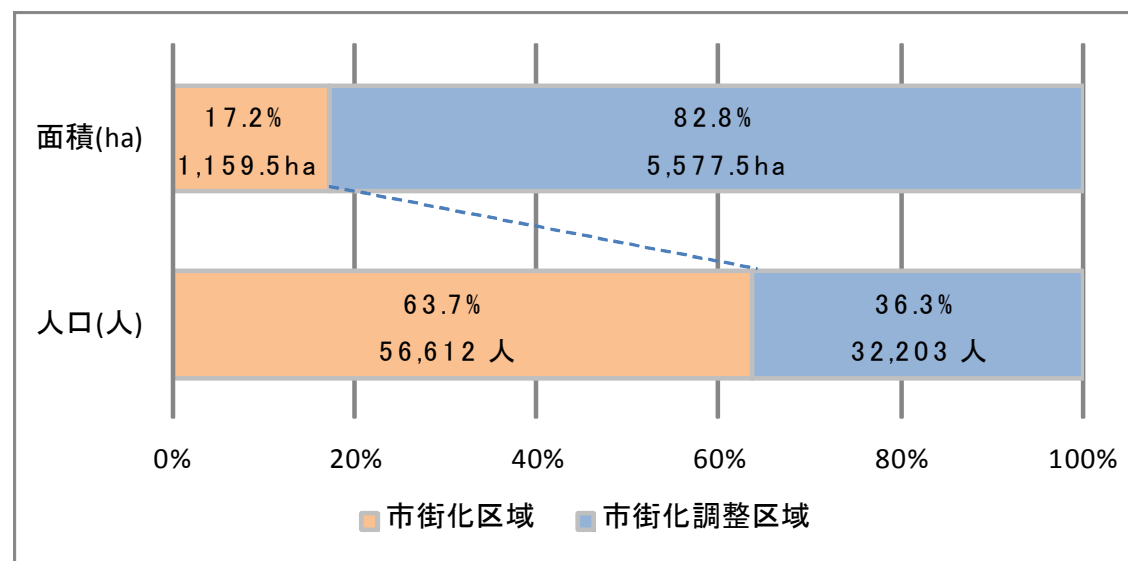


図 流出人口

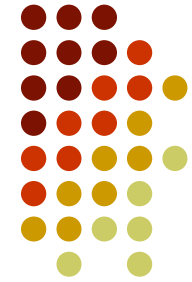


3) 区域区分別人口 (資料p5)

- 市街化区域の面積は、行政区域(6,737ha)のうちの17.2%(1,159ha)。
- 市街化区域に全市のおよそ6割の人口が集中。



4) 産業構造 (資料p5 - 6)



- 第1次産業及び第2次産業の人口構成比は減少傾向。
- 第1次産業は9.6%(昭和55年)から、3.9%(平成22年)まで落ち込んでいる。

【農業】

- 農家数・農家人口、経営耕地面積、ともに減少傾向。
- 特に農家人口は、昭和45年から平成17年の間に、ほぼ半減(約19,000人→約9,000人)。



【工業】

- 工場事業所数、製造品出荷額等は、ともに減少傾向。
- 特に、事業所数は、435事業所（平成3年）から239事業所（平成21年）と、4割減。

【商業】

- 商店数は、卸売業がほぼ横ばいである一方で、小売業が減少傾向。
- 小売業商店数は、987店（平成3年）から726店（平成19年）と、3割減。

5) 交通体系 (資料p7)



【幹線道路】

- 東西方向は、国道125号、国道125号行田バイパス、国道17号熊谷バイパスなどの広域幹線道路が充実。
- 南北方向は、地区幹線道路が均等に計画され、整備が進んでいるものの、東西方向に比べて脆弱。

【鉄道・バス】

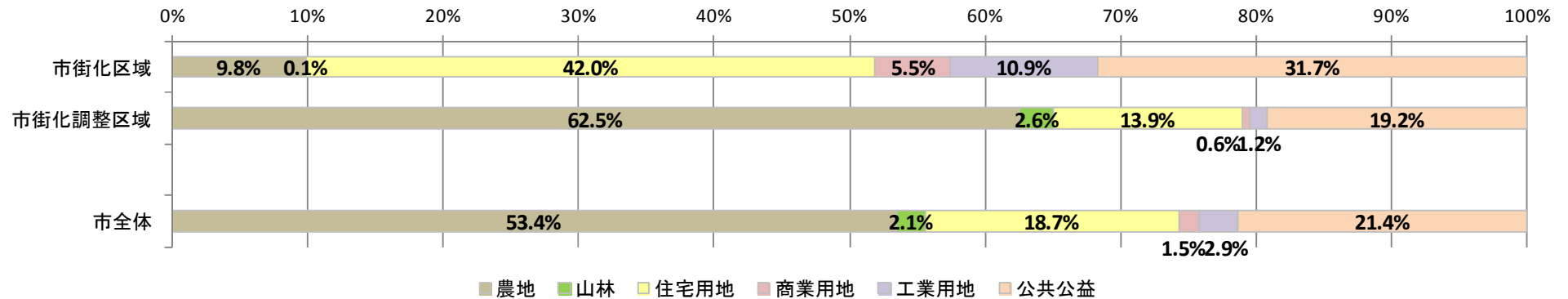
- 鉄道の年間乗客数は、JR行田駅で減少傾向。
- バスは、市内循環バス6系統に加えて、一般路線バスが運行されている。

6) 土地利用 (資料p8)



【土地利用】

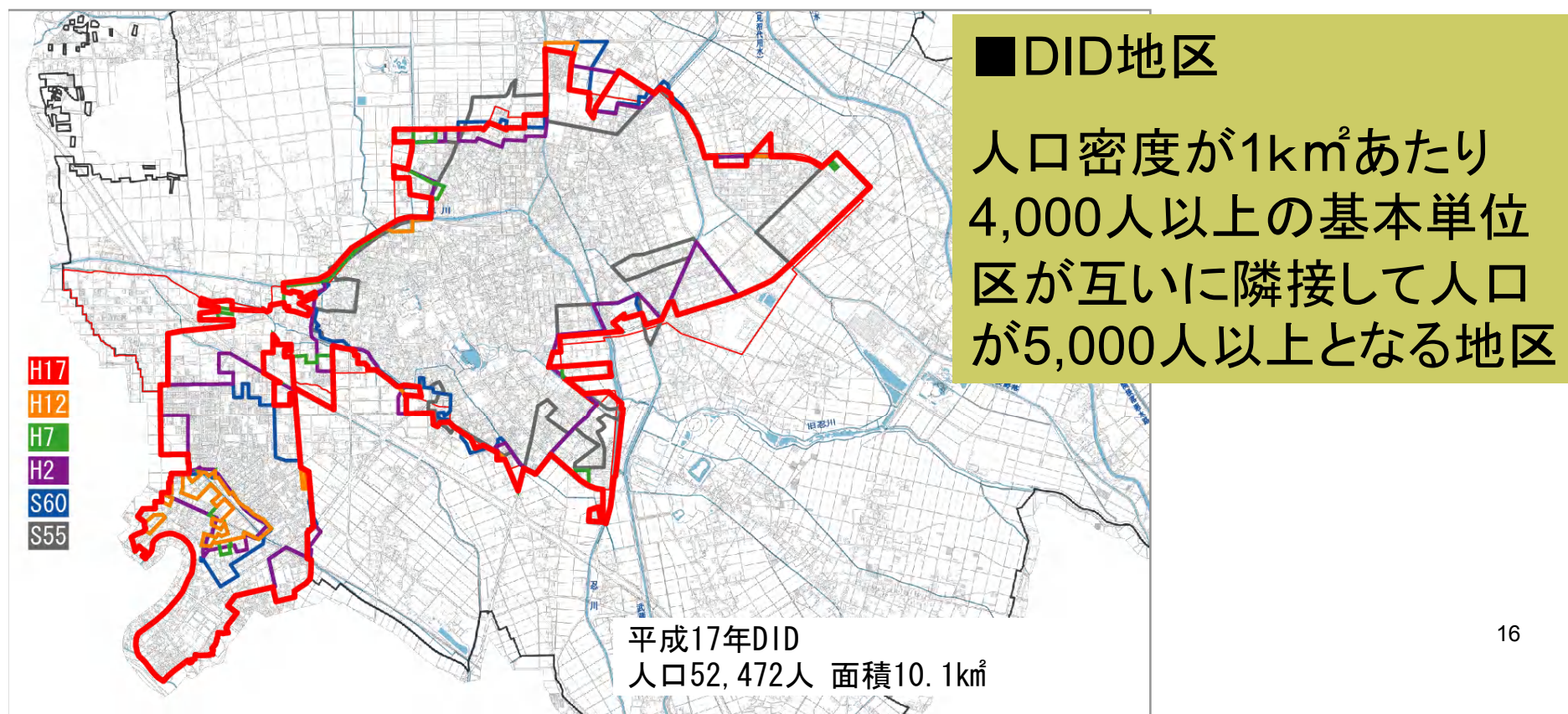
- 自然的土地利用は市全体で55.5% (農地は市全体の53.4%)、都市的土地利用は44.5%。





【人口集中地区】

- 人口集中地区(DID地区)は、増加傾向にあるが、DID人口は平成17年にはじめて減少に転じた。

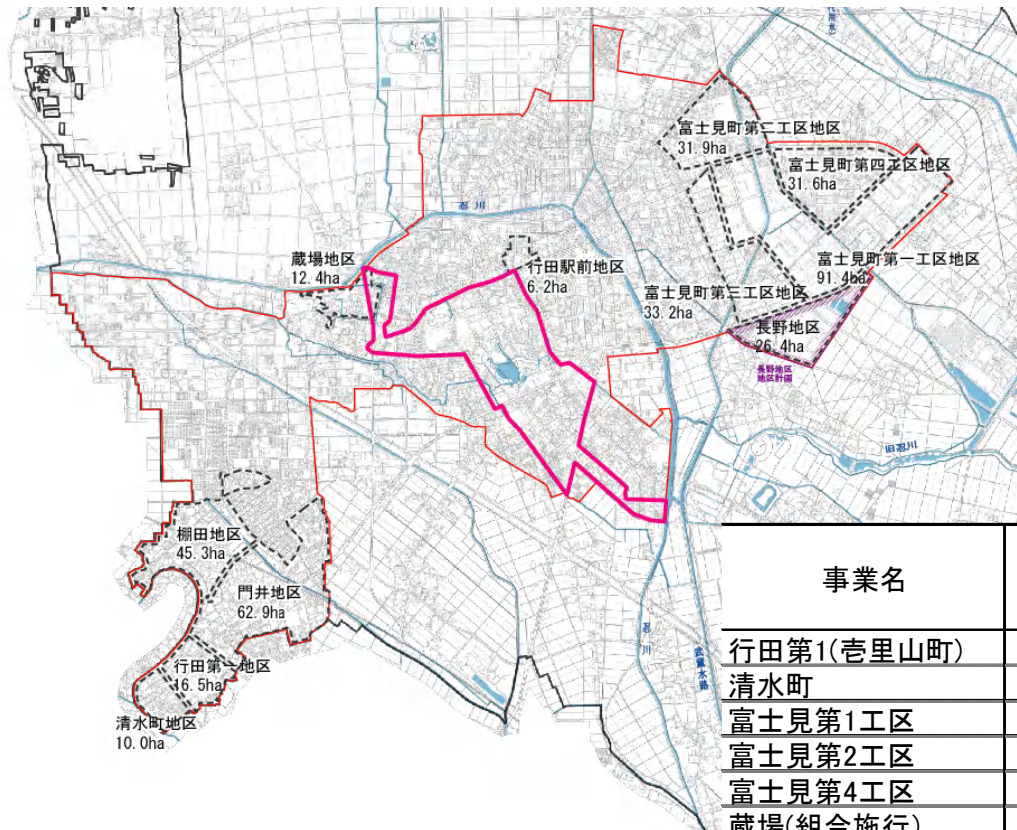


7) 都市基盤 (資料p9)



【面整備】

- JR行田駅周辺および工業系土地利用エリア(富士見、長野)において、まとまった規模での面整備が行われている。



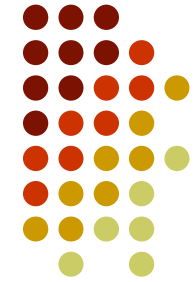
	土地区画整理事業
	都市再生整備計画 (行田市文化ゾーン)
	地区計画
	市街化区域



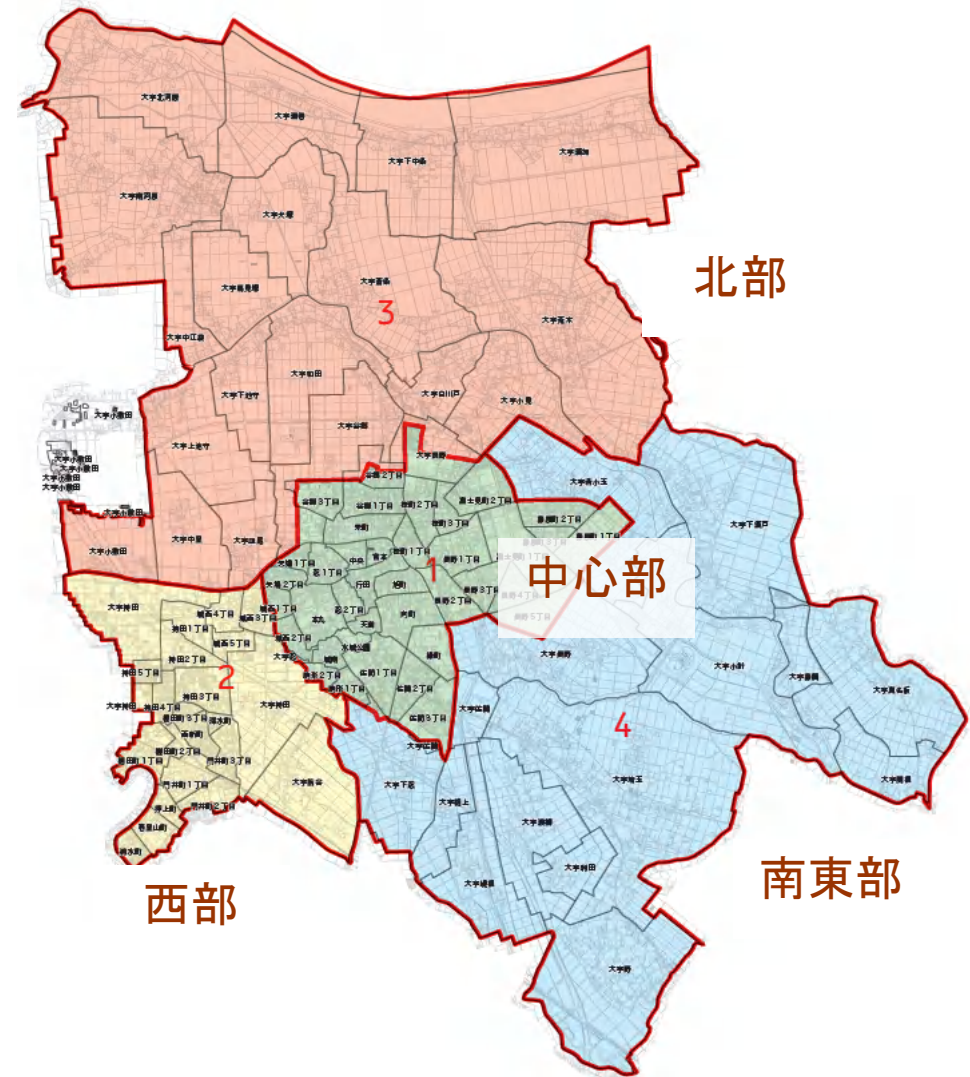
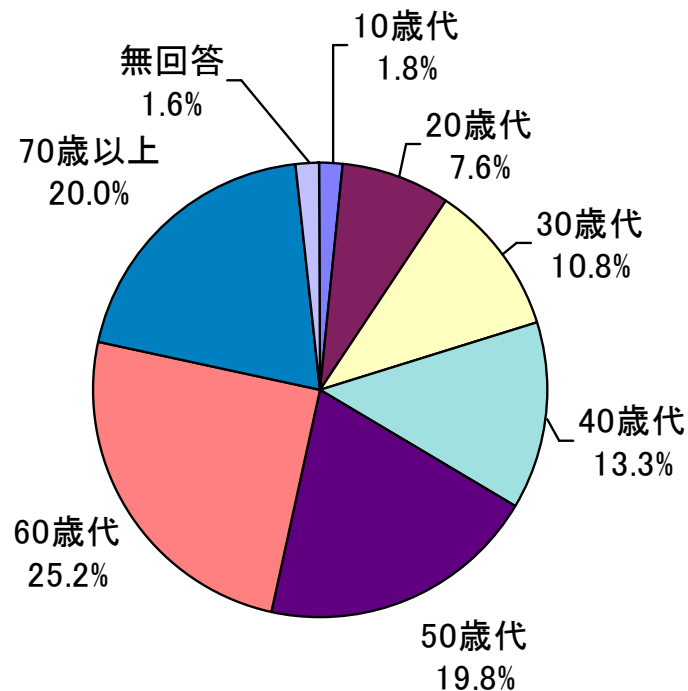
事業名	事業期間	施工地区面積 (ha)	計画人口
行田第1(壺里山町)	昭和34年 ~ 昭和37年	16.5	980
清水町	昭和39年 ~ 昭和39年	10	800
富士見第1工区	昭和39年 ~ 昭和42年	91.4	650
富士見第2工区	昭和39年 ~ 昭和42年	31.9	850
富士見第4工区	昭和43年 ~ 昭和45年	31.6	1,490
蔵場(組合施行)	昭和47年 ~ 昭和49年	12.4	1,240
門井	昭和46年 ~ 昭和50年	62.9	4,700
行田駅前	昭和39年 ~ 昭和51年	6.2	1,500
棚田	昭和50年 ~ 昭和55年	45.3	3,400
富士見第3工区	昭和60年 ~ 平成2年	33.2	2,300
長野	平成7年 ~ 平成17年	26.4	400
計		367.8	18,310

資料: まちづくり推進課

3. 市民アンケート調査結果概要



- 実施期間：平成23年9月～10月
- 対象者：市に住民登録されている18歳以上の方の中から、無作為に約3,000人を抽出
- 回収数 1,132票
- 回収率 約4割



問 現在お住まいの地域について



1) 居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ●日当たりや風通し ●宅地の広さやゆとり ●音や振動などの静けさ ●下水道やU字溝などの排水施設の整備状況 ●身近な遊び場や公園の整備状況
2) 暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ●生活道路の整備状況 ●幹線道路の整備状況 ●日用品の買い物の利便性 ●公共交通（バス・鉄道）の利便性 ●公共施設へのアクセスのしやすさ ●鉄道へのアクセスのしやすさ
3) 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ●信号機、ガードレールなどの交通安全施設 ●地震や風水害などへの防災対策 ●照明灯、防犯灯などの防犯施設 ●地域での防犯・防災の取組み
4) ゆとり、 うるおい	<ul style="list-style-type: none"> ●緑や水など自然の身近さや豊かさ ●集落や田園などの農村風景の美しさ ●住宅地や沿道などの街並みの美しさ ●歴史的建造物や文化財などの保全・活用
5) コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ●公民館などのコミュニティ施設の整備状況 ●地域の交流 ●高齢者や子どもに対する地域での見守り活動

「満足」「ほぼ満足」
の評価が
半数を上回る項目

●
「不満」「やや不満」
の評価が
半数を上回る項目

地域別の傾向 (満足度の評価が低い項目)



北部・南東部

居住環境

「身近な遊び場等の整備」
「下水道」

暮らしやすさ

「買い物の利便性」
「公共施設アクセス」

西部以外の地域

暮らしやすさ

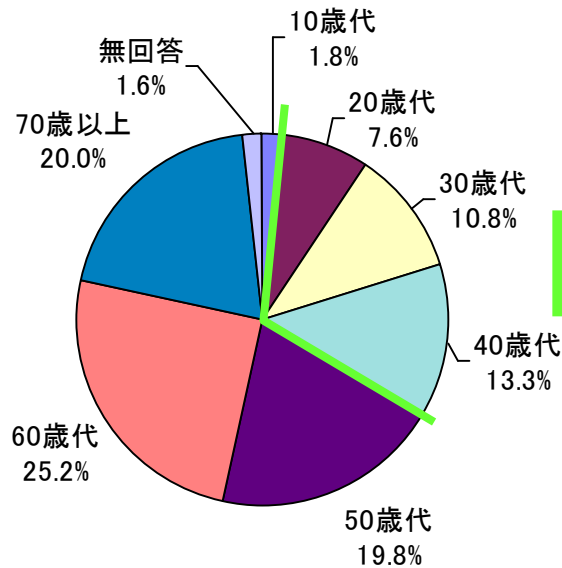
「鉄道へのアクセス」

中心部以外の地域

安全・安心

「照明灯等の防犯施設」

年代別の傾向



20
〜
40代の「子育て世代」

「身近な遊び場や公園の整備状況」
「公共交通（バス・鉄道の利便性）」
「照明灯、防犯灯などの防犯施設」
など、通勤や子育てに関連する項目で
極端に満足度が低い。

「緑や水など自然の身近さや豊かさ」
「住宅地など街並みの美しさ」
「歴史的建造物などの保全・活用」
など、生活にゆとりやうるおいを与える環

境

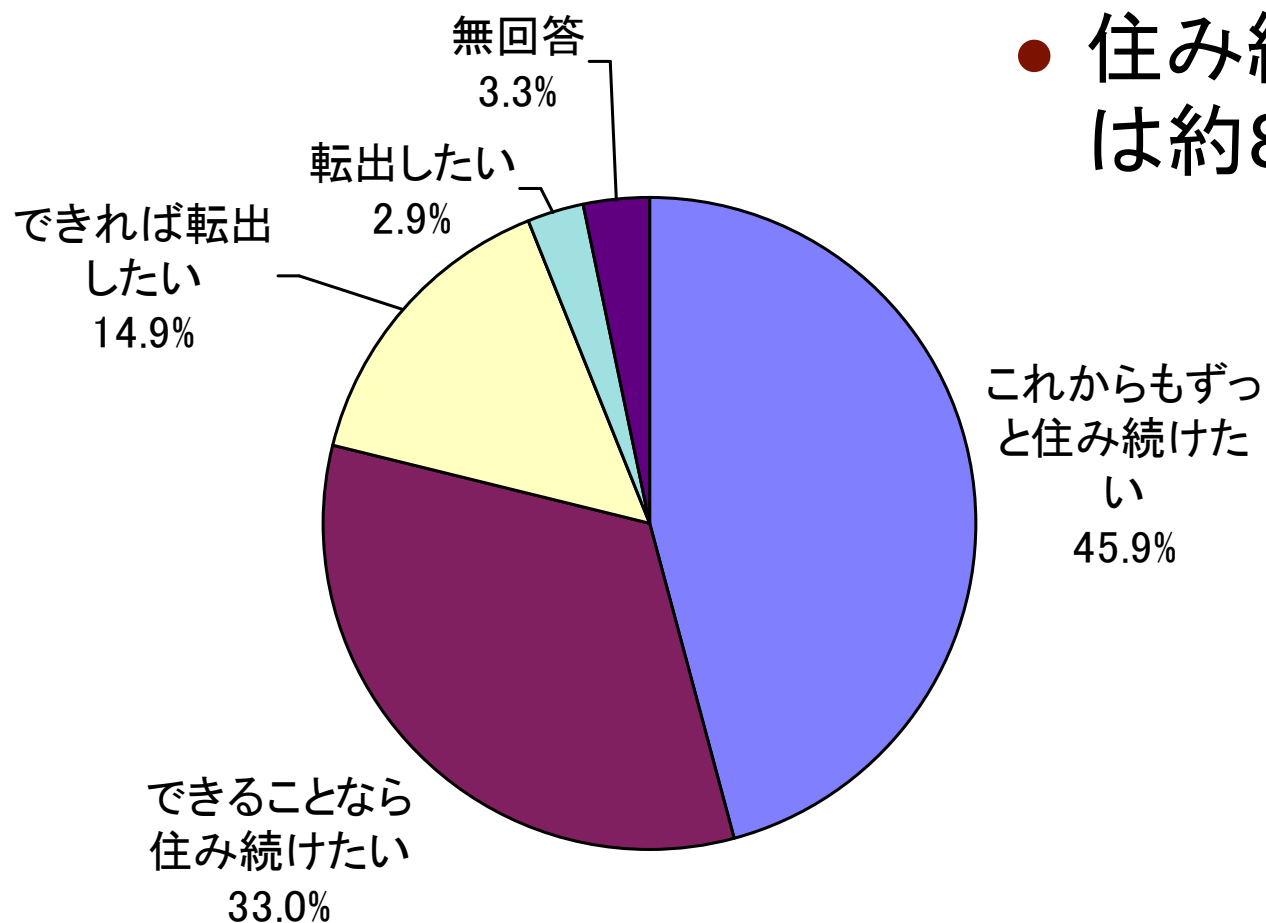
男女別の傾向

「幹線道路の整備状況」や文化に関連する項目で満足度が高い。
「街並みの美しさ」「歴史的建造物などの保全・活用」
「地域の交流」

の項目で、女性の満足度が特に高く、環境・文化面だけではなく、暮らしを支える都市基盤や地域コミュニティへの関心の高さが伺える

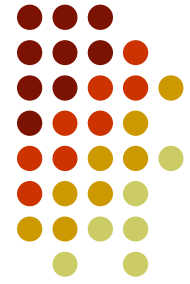


問3 現在お住まいの地域に住み続けたいか

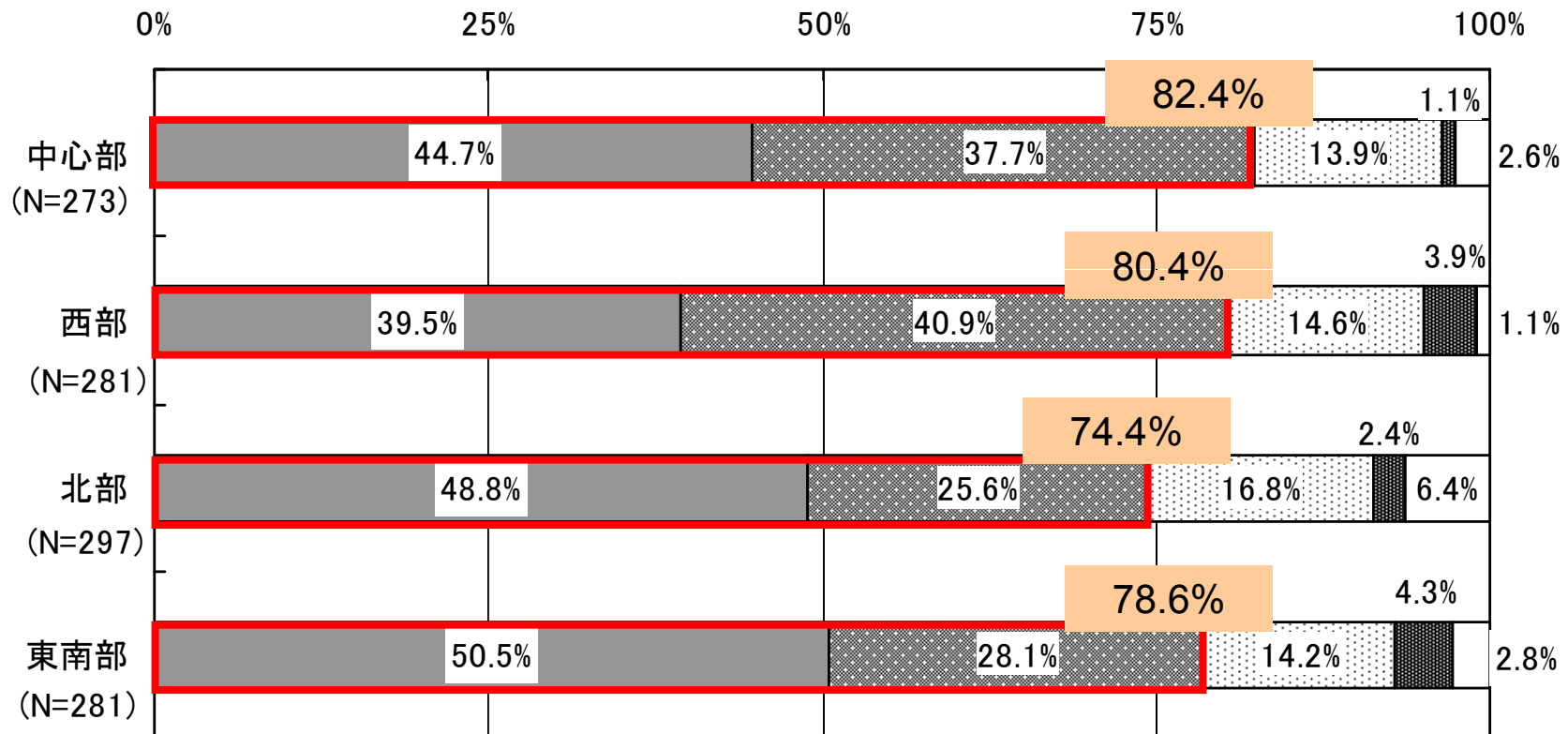


● 住み続けたい人は約8割。

地域別の傾向



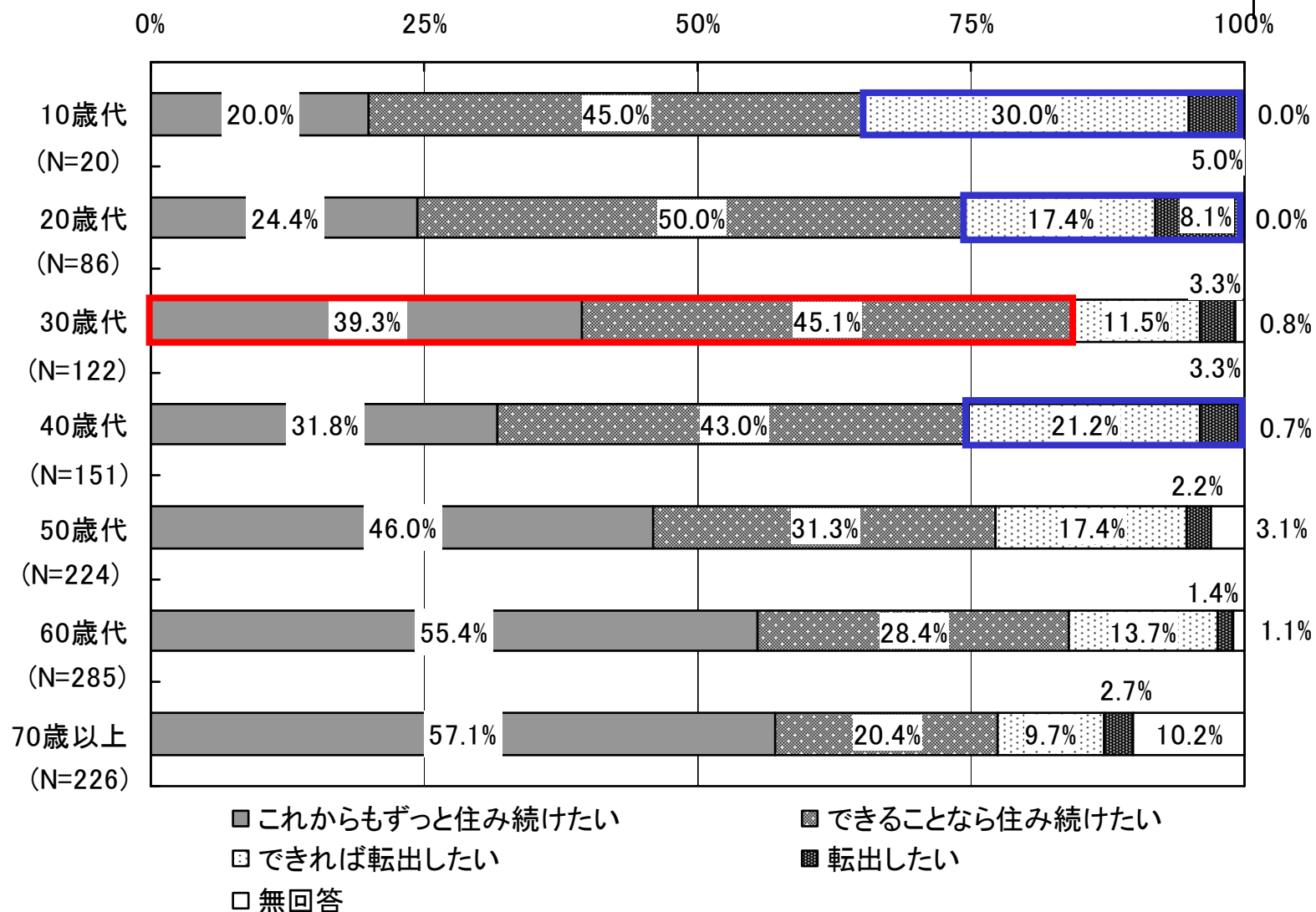
- 中心部が約82%と最も高く、北部が約74%と最も低い。



これからもずっと住みたい
 できることなら住みたい
 できれば転出したい
 転出したい
 無回答

年代別の傾向

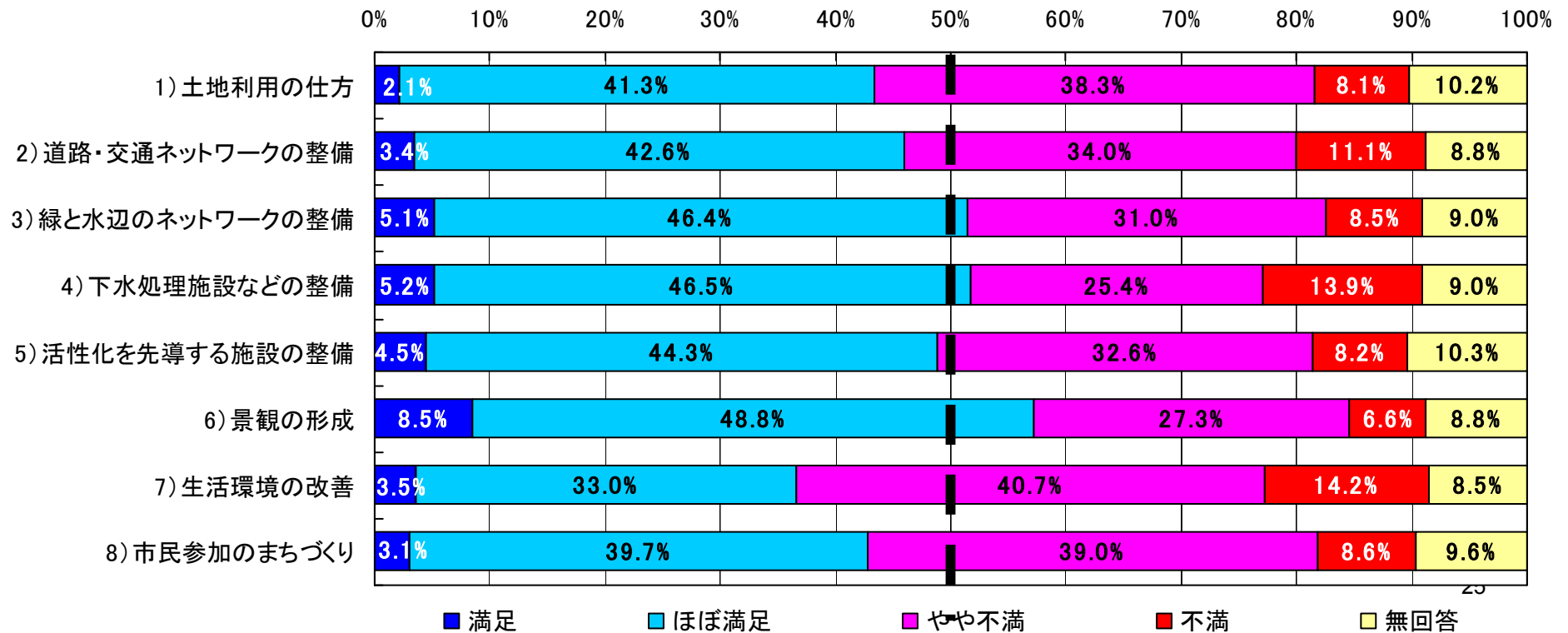
- 40歳代以下の転出意向が高い中で、30歳代は定住意向が比較的高い。



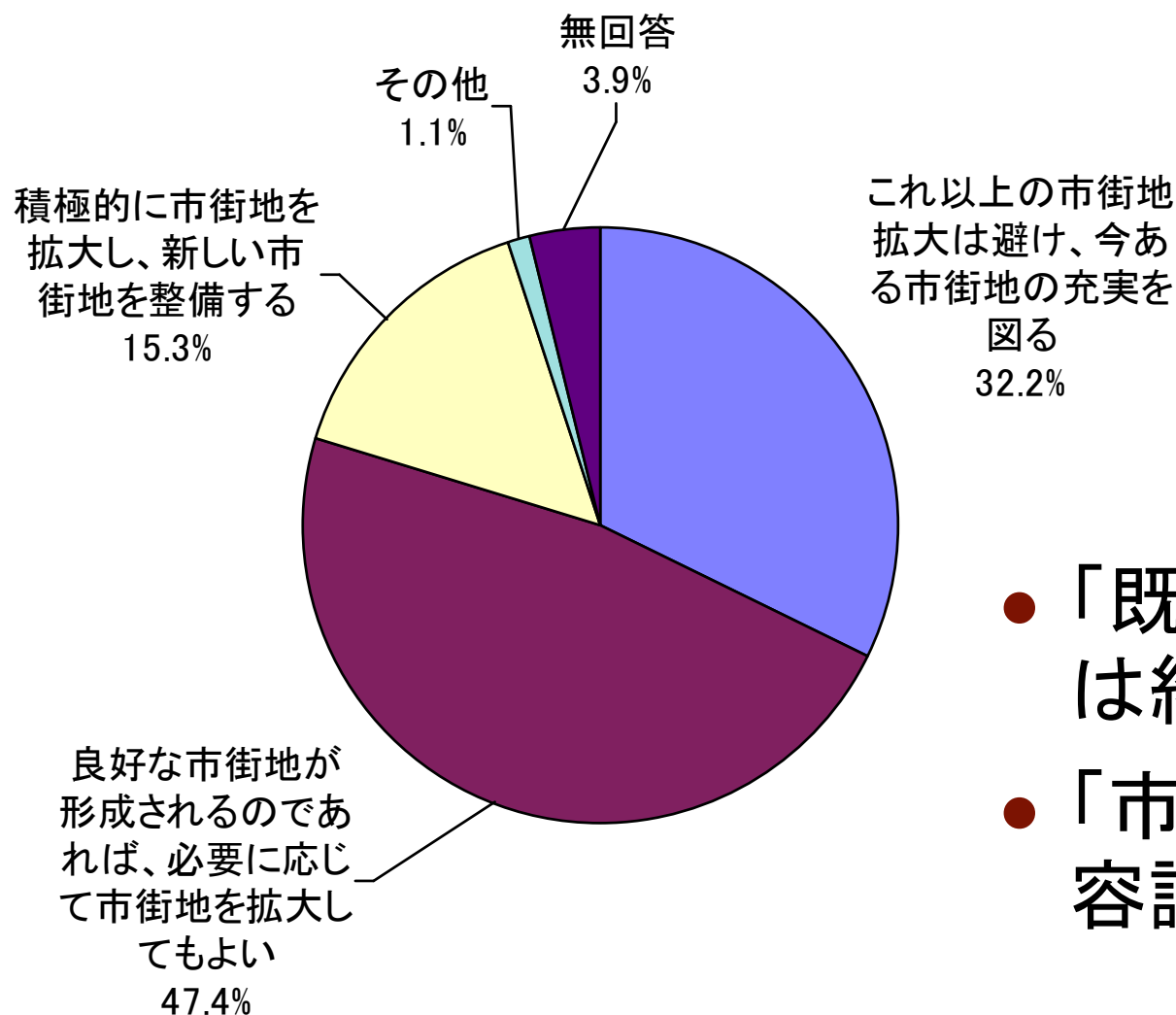
問7 これまでのまちづくりの取り組みに 対する評価



- 「景観の形成」は高評価（満足している人は約57%）
- 一方、「生活環境の改善」は低評価（不満を感じている人は約55%）



問11 今後の市の土地利用の方向性

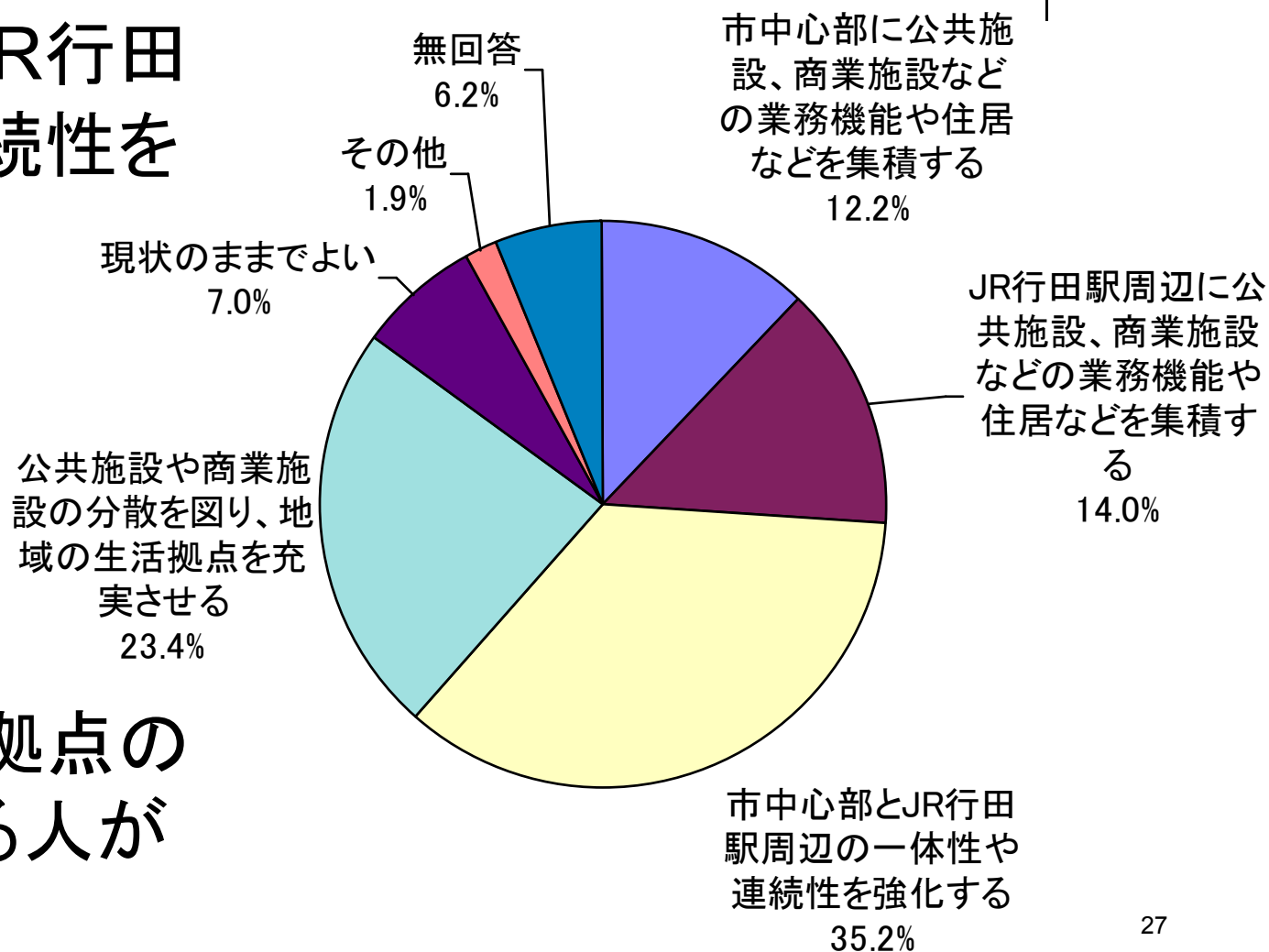


- 「既存市街地の充実」は約32%
- 「市街地の拡大」を容認する人は約63%

問15 今後の拠点整備のあり方



- 市中心部とJR行田駅周辺の連続性を求める人が約35%



- 地域の生活拠点の充実を求める人が約23%